

2025 年度日本国際保険学校（ISJ）一般コースを開催しました

一般社団法人 日本損害保険協会(会長：船曳 真一郎)では、日本国際保険学校（ISJ）について、2025 年度の一般コースは「損保業界が社会の安心・安全に貢献し続けるための業務品質と専門的知識・スキルの向上」をテーマに、オンライン1週間（11 月 12 日～11 月 18 日）と対面1週間（11 月 26 日～12 月 2 日）を効果的に組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

一般コースでは、将来を担う若手層を中心に、本邦損害保険商品や基礎実務知識を扱う講義に加え、参加者同士で議論する機会を設けています。本年度は、株式会社自研センターでの課外講義および東京臨海広域防災公園での体験学習の機会も設定のうえ、東アジア 13 地域の損害保険会社や保険監督官庁等から 22 名を参加者として迎えました。

オンラインでの開講式にて、当協会の宇田川智弘常務理事が主催者を代表して挨拶を行い、複雑かつ多様なリスクが顕在化するなかで、私たちは直面する様々なリスクから人々を守るための共通の課題を有していることを説明し、「共に解決策を模索しながら、東アジア地域における損害保険業界の未来を牽引するリーダーとして活躍いただきたい」と期待を寄せました。

対面での開講式では、同 宇田川常務理事より参加者に対して、「時代や環境の変化にリスクはつきものであり、今後も社会インフラとして解決策を提供していくことで、安心・安全な社会を支えるという損害保険業界の使命を果たしていくことが重要である」と述べ、国際社会が直面する最重要課題の一つである防災・減災の取り組みをはじめとする知見の共有や連携の構築・強化を図っていくことの意義を強調しました。

各講師は、メインテーマに沿った講義を実施いただき、多くの講義で参加者から寄せられた質の高い質問に対して、的確かつ丁寧な質疑応答を行っていただくことで、各講義への参加者のより深い理解を促すことにつながりました。

参加者からは「日本の損害保険業界に関する座学に加え、東アジア地域における共通課題である自然災害リスク等についての議論や防災体験学習を通じて、損害保険の社会的機能や自然災害リスクをあらかじめ想定し、被害を最小限に抑えるための防災・減災への取り組みに深く感銘を受けた」「本コースで得られた知識や経験を各地域に応用していき、ここで築かれた強い絆をこれからも大切にしていきたい」との声が寄せられ、東アジア各地域の損害保険業界のより良い未来につながる学びの場として、また、地域の垣根を超えたネットワークを構築する場として、有意義なプログラムとなりました。



最終日の修了式

日本国際保険学校（ISJ：Insurance School (non-life) of Japan）

- 国連貿易開発会議（UNCTAD：United Nations Conference on Trade and Development）の勧告および東アジア保険会議（EAIC：East Asian Insurance Congress）の要請を受け、東アジア地域の損保業界に対して行う海外技術援助研修プログラム。
- 1972 年に一般コース、1991 年に上級コースを開講し、これまでに一般・上級コースでのべ 2,397 名以上の卒業生を輩出している。